

ゆめ通信

Vol. 22
2012.3.23



表紙企画

このプロジェクトリーダーに聞いた！
『あなたの“ゆめ”はなんですか？』

3月3日(土) 全国まちづくりカレッジ in 沖縄

示 食べ物と料理の
物語を運ぶ
郵便屋さんになりたい！

(リーダーX)

- 2~3 「全国まちづくりカレッジ in 沖縄」レポート
はいさい！ 沖縄で学んだ日本学
にふえ〜で〜びる沖縄 (ありがとう)
- 4 信州あづみの光城山プロジェクト
- 5 活動を生かした小冊子づくり
- 6~7 学問と「地域人学習」を結ぶ地域活動
- 8 Information



学校法人松商学園
松本大学

“ゆめ”の由来…結芽『ニーズの芽を結ぶ場所』+夢+遊眼『遊び心の視点を持つ眼』
地域づくり考房『ゆめ』は、大学で学んだ知識や技術を学生が地域づくりの中で実践的に生かしていく
ことを目指しています。

「全国まちづくりカレッジ in 沖縄」レポート



はいさい! 沖縄で学んだ日本学

健康栄養学科2年 梶原 悠

拝 啓、まだ肌寒さが続く季節…
なんて言葉が嘘のように思われた沖縄。空港を降りるとすぐにその暖かさと湿度の高さに「異国」を感じさせる沖縄で私たちの沖縄研修『まちづくりカレッジ』は始まりました。到着後すぐに、沖縄探索として各自様々なところを巡りました。

まず初めに向かった首里城は、そこはまさに異国と言うべきなのか原日本と言うのか…。中国文化の要素をふんだんに感じるその場所は、日本国における無双の城と想わせる場所でした。内装もまさに中国風。私は三国志が個人的に好きなのでそれを思わせる正殿内部の王座に感動しました。しかし、その直後、身が引き締まる想いをしました。なんと、すぐそばにあったアクリル板から地下が見られるようになっていて、その地下には戦争で破壊された首里城基礎が今なお残されていたのです。神々しくも美しい首里城とその地下のギャップに、いかに戦争が愚かしいものか改めて痛感しました。

首里城見学後の夜、他のメンバーとも合流し沖縄料理を堪能しました。食文化もないちー（沖縄の方言で本土のこと）とは大きく違い、昆布など海草を調理するときはないちーでは佃煮な

どが定番ですが、沖縄では炒め物にして普通に食します。特にもずくの天ぷらや炒め物には既成概念を覆されました。このような調理の違いからも、ないちーとはミネラルや食物繊維の摂取量の差が大きいのではと感じました。しかし、最近ではメディアの影響でないちーの料理を常食する若者が増えており、長寿県と言われた沖縄の郷土料理の人气がなくなっていくには寂しさを覚えました。

そして翌日、牧志公設市場のなかにある『なほ商人塾』を会場に、北は東海大学札幌キャンパス、南は地元沖縄大学、そして長野県から近い名古屋学院大学など計11大学が各活動の発表や意見交換を行ないました。各大学のユニークな発想、社会に出たときに実際に使えるノウハウ、今後の課題と共にその打開策を発見することが出来ました。

発表の後は、『市場に料理を買いに行つて!』というグループワークを行いました。空のオードブル容器と資金を渡され、各グループごとにその空の容器を市場の食材で埋め尽くそうというなんとも美味しい企画です。活気のある市場と珍しい果物や魚達、目移りして仕方なかったです。食べるのが好きな人間にとってはまさに天国でした（笑）そして待望の実食では各大学が入り混じり、活動について意見交換ができ、2日目の活動に期待が膨らみました。



2 日目は各大学の地域活動の学術研究についての講義が行われました。「どんな活動を行う時も、Plan（計画）Do（活動）Check（評価）Action（改善）を必ず行っていくことが常に発展に導くのだ」ということを学び、自分の活動でも特に留意していこうと思いました。そして講義の後には、『未来へ残したい宝物探し』というテーマでグループワークが行われ、グループごとに那覇市の市街地や商店街の探索を行い、そこで発見したことをまとめて発表しました。

私は『未来へ残したい宝物』は『沖縄の人々と文化』であると発表しました。それは、今の日本人が忘れていた日本人としてのアイデンティティと歴史が沖縄にはあったからです。沖縄は今まで歴史上3回、「沖縄」となりました。そんな曖昧な歴史の中で沖縄の人々は沖縄の人としての、日本人としてのアイデンティティを築き上げてきました。その例として、首里城が西を向いていることが挙げられます。本来は南向きに造設されているはずのものが西を向いている。諸説ありますが、これは中国文化でも日本文化でもなく沖縄特有のものです。

そして「ミルク酒」。我々本土の人間はお正月には白酒を飲みますが、沖縄にはそのようなものはありません。そこで、泡盛をコンデンスミルクで割った白いお酒を御神酒として飲むのだそうです。アメリカ占領下だった沖縄の人々にとっての「日本人だ」というアイデンティティが見受けられました。

そして我々が忘れがちな戦争の歴史の傷跡。まだまだ沖縄には残っており苦しんでいる人がいるということを知り、大きなカルチャーショックを受けました。日本に生まれ日本語をしゃべることができれば日本人という訳ではありません。日本人という自覚と想いがある、初めて生まれるのだと思うのです。

沖 縄には未だ多くの問題があります。普天間問題、リゾート地増設による環境問題。このような国の問題を沖縄県1つで抱え込んでいるのです。歴史的に見ても沖縄県は日本本土に、いいように使われてきました。

そんな沖縄の人々の心理は複雑だと思います。だからこそ、沖縄を見つめることで今後の日本の未来ビジョンが見えるのではないのか、そして沖縄にはそんな日本という国の髄が詰まっているのだと感じた、濃い3日間でした。



にふえ〜で〜びる沖縄 (ありがとう)

他大学の活動に気付かされ

私 は今年の春に4年生。そして、就職活動中…。また、卒論研究も決まっていな中、この全国まちづくりカレッジに参加し、いろいろな発見と新しい活動をお土産にして長野へと帰ってくる事ができ、心の底から参加してよかったと感謝しています。

その理由としては、他大学がいろんな方法で、地域



タコライス



参加者の集合写真

健康栄養学科3年 米山 詩乃

と連携したり、交流していることを学びました。それと同時に、名古屋学院大学と新しい取り組みを企画するという、大きな収穫をしていくことができました。まだ、具体的な内容や方針は決まっていません。3月22日には名古屋学院大学に視察に行ってきました。そこでは、パン屋を大学内に設けて、平日限定で地域の方たちや学生たちにパンを手作りで提供しています。そこで私たちは、長野県の特産品を使って一緒に新商品を開発できたらいいなと考えています。私は栄養学の視点で、お客さんに対する栄養教育や食育活動も一緒に活動させていただけたらいいなと思っています。具体的には、例えば、ヘルシーパンメニューを商品化し、その中に入っている食材の豆知識や情報を載せたパンフレットをパンと一緒に提供しポスターにして見ていただけるようにすることを考えています。

このように他大学と協力し取り組める活動がしっかり形成されることを願っています。私も、ラスト大学1年を今まで以上の最高の思い出になるように、1日1日を大切に、活発に過ごしていけたらと考えています。

本 当に、全国まちづくりカレッジに誘っていただき感謝しています。

先生方、ありがとうございました。

「安曇野市東山一帯の魅力を若者の目線から伝えてほしい」との地域からの呼びかけに松大学生が応えて



信州あづみの光城山プロジェクト

9月に、安曇野の自然環境・景観の保全、歴史・文化の探究・伝承、市民の健康増進、滞在型観光振興などを図ることを目的に事業を行っているNPO法人楽々安曇野から安曇野市を介し、考房『ゆめ』に依頼がありました。

安曇野市東山の自然（動植物、景観など）、歴史・文化を地元の方々のお話や散策を通して調査し、学生の斬新な視点で見た一帯の魅力を冊子やマップにまとめることにより、里山のよさを若者にも伝え、将来的に里山保全の活動につなげたいとの地域の期待に応え、短大部学生7名が参画し、産学官民協働事業として進められました。

数回の話し合い後2チームに分かれ、各々3回程、スタッフや地元住民の案内でトレッキングコースを散策したり、かつて光城山周辺に暮らしていた人の聞き取り調査を行いました。

た。学生はお話で聞いた内容だけではなく、実際に見て感じた「いいところ」や「困ったところ」も若い視点で発見してまとめました。その後、大学でのまとめや地域の方への報告会を持ちながら内容を深め、ついに5カ月にわたった活動の末に里山の冊子とマップ（下図）が完成しました。

3月20日には、豊科ふれあいホールにて冊子完成記念報告会が行われ、安曇野市内外の方250人が集まるなか、学生が調査しまとめた冊子について報告しました。参加した短大部1年の丸山李紗さんは、「地域活性化は今重視されていることだと思います。そのために新しい何かを始めるだけでなく今ある資源をどううまく使っていかかが重要だと思いました。地元の桜の名所でもある光城山。四季折々の色を映し出し地域を守り守られ、ともに年をとっていく大切な資源だと感じました。今回のマップ作成でより多くの方が光城山に関心を持ち、訪れて欲しいと思いました。」と述べています。



←里山のマップ

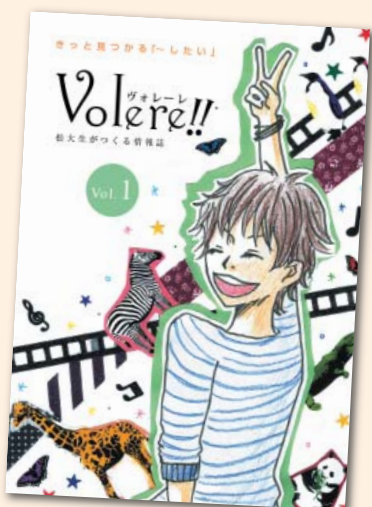


光城山周辺の見どころ→



活動を生かした小冊子づくり

今回は、さまざまな人に手に取ってもらうために工夫を凝らしながら小冊子の作成を行なった2つの活動を紹介します。



松大生がつくる情報誌!!

Volere!! 完成!

プロジェクト名

ゆめ通信編集委員

松商短期大学部2年 大輪 啓子

私は、ゆめ通信編集委員と新村館報編集委員として2年間活動してきました。その集大成として、ゆめ通信編集委員のメンバーに呼びかけて、松大生がつくる情報誌「Volere!!」を創刊しました。

「Volere」とはイタリア語で「～したい」という意味です。この「Volere!!」を読んでもくださった皆さんに「おもしろい」「手に取ってよかった」と思ってもらえるものを作りたいと思い、活動をしてきました。掲載内容を考え直したり、会議にメンバーが揃わなかったり大変なことがたくさんありました。しかし、大変だからこそみんなで協力し合い、試行錯誤する中で成長できたと思います。

内容は、配るターゲットを新生入生に絞ったので、自分たちが入学した時にわからなかったこと・知りたかったことを思い出して、ガイダンスを受けるだけでは知ることができない、授業内容や大学のある新村地区周辺の情報などを掲載しました。また、クロスワードや飲食店のクーポンも掲載し、知るだけでなく、楽しめて使える情報誌になるように工夫しました。新生入生オリエンテーションで新生入生の皆さんに配布するので、ぜひこの情報誌を利用していただき、充実した学生生活を始めるきっかけにしたいです



野菜たっぷり!! ヘルシーレシピ完成!

プロジェクト名

新鮮☆ゆめ市場

観光ホスピタリティ学科2年 若林 みどり
村松 実可子

私たちは、松本大学の地域づくり考房『ゆめ』で「新鮮☆ゆめ市場」というプロジェクトを立ち上げ、塩尻の農家の方と一緒に、大切に育てた自家製の野菜などを販売してきました。野菜についての知識を得ることや地域の方とのコミュニケーションを図ることを目的に、月に2回「新鮮☆ゆめ市場」を実施しました。始めは授業の一環としてスタートした「新鮮☆ゆめ市場」でしたが、様々なことを経験した貴重な2年間になりました。農家さんとの関わりの中で、大学では学ぶことのできない野菜の知識や調理法を学ぶことができました。様々なことを教えてくださった農家さんには、本当に感謝しています。また、接客や販売、会計を通して将来に活かせるスキルを得ることができました。残念ながら野菜市は終了となりましたが、活動を通して学んだことを日々の生活にしっかりと活かしていきたいと思います。



そして、約2年間の活動の集大成としてこの度、野菜や果物を使ったレシピ集を作成することにしました。農家の方に教えていただいたレシピや学生が実際に考えたレシピなどが載っている簡単レシピ集です。試行錯誤しながらレシピを考え、試作を重ねました。料理経験の少ない学生でも作りやすいように、あまりなじみのない料理を紹介しているので、調理のポイント等を書き工夫しました。

1人暮らしの学生に、主婦の方に… 使い方はいろいろ。自分流にアレンジしてみるのもいいですね! ヘルシーレシピが皆さんのお役に立つと嬉しいです。松本大学の掲示板・地域づくり考房『ゆめ』・公民館等に配置します。ぜひ手に取ってみて下さい!

学生プロジェクト「ヘルシーメニュー」が
ワインやお酒と身体にやさしい料理を愉しむ **きらめきパーティーに参画！**

12月3日（土）に塩尻東地区センターにて、「きらめきパーティー」が開催され、地元の野菜を使った料理を地域の方と一緒に作り、ワインやお酒と共に味わったり、私たち企画の栄養講座やクイズを行いました。

今回のイベントは会費をいただくパーティーです。参加いただいた皆さんに満足して帰っていただけるよう、意見を出し合い工夫しながら、品数やバランスを考慮しました。大学のメニュー開発などでは同じ学年の中で意見を出し合うことが多かったのですが、今回は1～2年生のアイデアを聞きながらメンバー全員で考えることができて楽しかったです。

当日は、地域の参加者の皆さんと一緒に調理を行ったり、参加者の中で多かった50～60代の方向けに「寒い季節を健康に過ごすために知っておいていただきたいこと」をテーマに栄養講座も行いました。食品のカロリーを当てるクイズなども行い、日頃気を付けたことが簡単に解るよう工夫しました。

ふだんは教える側に立つ機会が少ないのであたふたしてしまうこともありましたが、教え方を勉強したり、またコミュニケーションの大切さを学んだり、得るものがとても多かったと思います。イベントを通じて地域の人と交流することの楽しさも知りました。アンケート結果を参考にして課題を改善しながら、今後も地域の方と交流できるイベントを開催していきたいと思っています。

健康栄養学科3年 尾和 美沙紀

MENU

- *ひとくちオムライス *やわらかチキンのりんごソテー *白ねぎとエリンギのベーコン巻
- *鶏ハム *3種のカナッペ *きのこのノンオイルマリネ *サラダ
- *かぼちゃのパウンドケーキ *アップルワインゼリー *りんごとヨーグルトのゼリー

きらめきパーティーアンケート結果（抜粋）

* 学生さんの数も多く心を込めた料理に感心しました。今後もこのようなパーティーが続く事を願っています。 * 作り方の説明が少し聞きづらく残念でした。できたらレシピを見ながら説明が聞けたらとも感じました。 * 味とてもおいしかったです。量・メニューも最高に良かったです。 * 地元食材のPRがもっとほしいです。



ジビエ料理講習会に参加！
鹿肉の魅力を見ました



私は、地産地消にとっても興味があり、地域の食材を使い、新しいメニューを開発することに挑戦したいと思い、今回参加させていただきました。それと同時に、講義で扱ったことから、鹿肉に少し親近感があり、また食べてみたいと感じていました。

一般の方は、鹿肉を食べることに抵抗があると思います。食べたことのない食材を食べるには、勇気がいるのは当然です。ですが、実際に鹿肉を調理してみると、豚肉などより歯ごたえがあってミートソースと一緒に食べると臭みが無かったです。調理方法ではバターで焼くと肉本来の旨みができること、また豚肉に比べて脂肪分が少ないことも分かり、魅力がたくさんあることも知りました。

今回の講習会をきっかけに、まだ食べたことのない人にも、普段当り前のように食べている豚肉、牛肉、鶏肉と同じく「食べることができる」という感覚を持ってもらえるよう、今後もさらに鹿肉の調理方法や特徴を勉強する機会を持ち、鹿肉の良さをアピールしていきたいと思いました。

鹿による被害は思っていたよりも深刻なようです。今後もこのような講習会があればぜひ参加し、ぜひプロの料理人の意見の他にも、一般の方や私たち学生のアイデアも取り入れながら馴染みのある味わいや調理法を考えるなど、何か地域のためにお役に立つことができたらと思っています。

健康栄養学科2年 遠藤 真梨

塩尻の元気を伝えるインターネット
放送部「しおじい.iBC」収録に参加



11月26日(土)から「しおじい.iBC」の番組「げんすけスタジオ」に4回参加してきました。

この番組は、若者の視点で塩尻の魅力を再発見し、伝えていきたいと、大学生や高校生が毎回出演し、YouTubeやUstreamを活用して放送されています。

私は機材の勉強もしてみたいと考え番組に参加しましたが、高校生と一緒に塩尻市に関するクイズなどに参加すると、塩尻市について知らなかったことがほとんどだったので、いろいろな知識を得ることができました。今までは社会人の方と触れ合う機会があまりなかったので、関わっているうちに、社会人の方と上手く話せるようになりました。マイクを使ってみて、普段の声の小ささがわかったので、伝わりやすく話すよう心掛けるようになりました。今後は機材の勉強もさせていただき、「ゆめ撮影隊」の活動にも生かしていきたいと思っています。

この番組は、雑誌に載っていないような塩尻市の魅力がたくさん紹介されるので、ぜひご覧ください。

観光ホスピタリティ学科1年 武居 美咲

公園職員・地域サポーター・大学協働による
 国営アルプスあづみの公園

食の体験メニュー考案中！

国営アルプスあづみの公園大町・松川地区の「アルプスあづみの公園管理JV」から、「ぜひ国営アルプスあづみの公園を訪れた人に地域食材に親しんでもらえるよう、学生らしいアイデアを提供してほしい」と地域づくり考房『ゆめ』に依頼がありました。健康栄養学科1・2年と短大部の学生13名が参画し体験メニューの開発を行っています。地域食材を使った調理の発信を通じて公園の集客に寄与することを目的に、「食の体験」として来園者に提供する調理食を考案しています。

まず現地調査を行い、三者協働の意義と役割について双方で理解したうえで、学内・自宅・現地での試作・検討会を重ね、商品化に向け進めています。

学生は、現地の状況や顧客のニーズ等を研究し、公園側の調理機材が炭火対応調理という限られた中で、テーマやコンセプト・こだわり・作りやすさ・集客等を考え、親子連れの子供達に喜んでもらい、家庭や学校で再挑戦したくなるメニュー開発を行っています。3月20日には考案したメニューを各々炭火で調理しました。学生から考案されたメニューは6つ。そのうちの2メニューが5月の連休に提供されます。5月3日は、「じゃがいもモチ餅」・5月6日は、「だいすんどーナツ」。その他のメニューも改良を重ね随時、提供される予定です。健康栄養学科1年の伊藤ひろみさんは、「これから5月のお披露目に向けて、体験する人やスタッフなどさまざまな目線に立って、いいものを作りたいです。」と述べています。



さまざまな活動で集めた義援金をお渡しした
 栄村からありがとうが
 届きました！

昨年の3月から学内外で行なった募金と、10月に開催した松本大学祭「梓乃森祭」などで販売したはがきの収益をお渡しした栄村から、栄中学校生徒の絵手紙や栄村で使えるクーポンなどが届きました。

絵手紙には、りんごやみかんなどの絵が明るい色使いで描いてあり、「みなさんの支援のおかげで元気ができました。ありがとう」や「たくさんのあたたかい心ありがとうございました。」といったメッセージも描かれています。



学生プロジェクト「ええじゃん栄村」による
 栄村復興支援「さかえむらトマトジュース」販売

3,000本完売！

「ええじゃん栄村」では、栄村の復興支援として「さかえむらトマトジュース」の30本入り100ケースを販売し、収益をさかえむら農産物直売所「かあちゃん家」再建の資金として、全額寄付します。

学内だけではなく、学外の方にも購入していただくために、カタクラモールでの栄村市場やあいとびあ祭でも販売しました。来場した方には、一人一人に自分からあいさつをして、声を掛けていくように心掛けました。栄村市場での販売では、興味を持っていただいても、買い物した荷物が多く買って帰れない方が多かったので、注文票を作成して配布することにしました。注文票には、気軽に興味を持ってもらえるように手書きのイラストを入れたり、健康栄養学科で学んでいるので、栄養の観点から簡単な商品説明を書いたり工夫しました。

多くの方に被災地支援のためにと買っていただきました。皆さんの暖かい気持ちで、自分たちも更に頑張ることができました。

健康栄養学科1年 梶村 麻美



長野県
 男女共同参画センター
 “あいとびあ祭り”にて

5月
末まで
募集!!

学生の自主活動を応援する

平成24年度地域づくり

学生チャレンジ奨励制度募集受付中!!



「地域づくり学生チャレンジ奨励制度」とは……

松本大学は、本学学生の社会参加への第一歩となり、社会をより良くしていこうとするリーダーシップの芽生えとなる活動を支援します。楽しみながら自らも成長し、地域も活性化し社会貢献につながる、学生による地域づくりの活動を募集し、選考の上、助成を行います。

自らの意志によって、社会をより良くしていこうという Spirit と Plan を持ち、それを着実に実行することができる松本大学の大学生個人あるいはチームによる活動を対象とします。

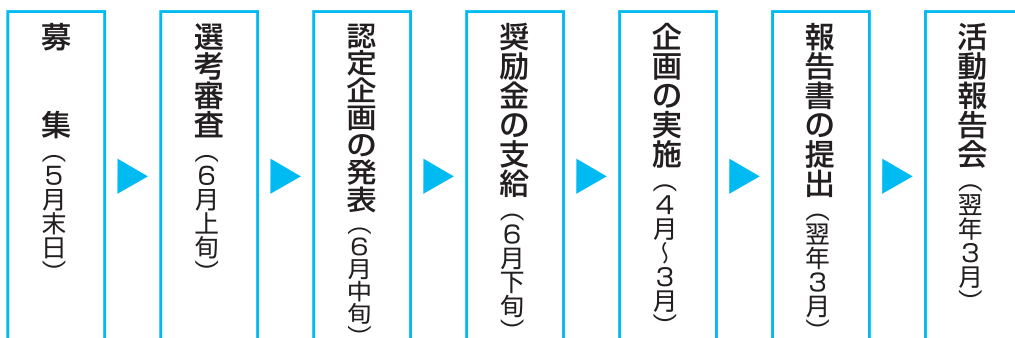
1. 松本大学生が中心となって行う活動であること
2. 団体の設立主旨や活動内容が特定の政治・宗教・営利の目的に偏っていないこと
3. 他からの助成を受けていないこと

応募方法：応募用紙のご請求及び記入後の応募用紙は考房『ゆめ』へご請求・提出ください。

応募資格

実施スケジュール

※助成を受けたチームは必ず報告会に出席することが前提となります。



助成金額

1グループ
上限
10万円

助成金額の加減はエントリーシートに記入された助成金の使用計画から適宜判断します。



1年間の成果を発表

23年度実践報告会が3月15日(木)に行われました。今年度は、松本大学こどもあそび隊・Sign・松本大学キッズスポーツスクール・信濃X・米粉PROJECT・ヘルシーメニュー・ええじゃん栄村・新鮮☆ゆめ市場の計8団体が助成を受け、1年間の事業や活動の成果・収支決算を報告しました。

つぶやき

3月12日(月)、安曇野市三郷にある「ばおばおのおうち」へ視察研修に行きました。これからの「こども広場」開催の参考にするためです。スタッフさんが笑顔で明るく迎えてくれたので、私たちもこの雰囲気づくりを学びたいと思いました。1番良いなと思ったのは、親・子供同士のコミュニケーションがあることです。「こども広場」では家族でまとまっていまい、他の家族との交流が全く無いのが課題でした。「違う家族同士が協力して作業をして、そこから繋がりを持つようにしていけばいいのでは」と、アドバイスをいただき早速取り入れてみたいと思いました。

そして自分達も楽しむことが何より大切なんだと痛感しました。今回学んだことをどんどん取り入れて、来て下さった親子やスタッフが笑顔でいられる場にしていきたいです。観光ホスピタリティ学科1年 大谷 あずみ

お問い合わせ、ご意見等は下記へご連絡ください。



松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

松本大学 7号館 2F

TEL: 0263-48-7213 (直通)

FAX: 0263-48-7216 (直通)

E-mail: community@matsu.ac.jp

※開館日時：月～金 9:30～18:30